

医師の異動（10月）

■着任（令和3年10月1日付）

外科部長 上田 修吾（うえだ しゅうご）

開放型病床生涯教育研修会 兼 化学療法研修会のお知らせ

【第316回開放型病床生涯教育研修会 兼 第11回化学療法研修会】

日時：令和3年11月11日（木）17:30～19:00

テーマ：個別化医療が進む肺がんの薬物治療

講師：静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科医長 兼 ゲノム医療支援室部長 ^{けんもつ ひろつく} 劔持 広知先生

会場：市立長浜病院本館2階 第1会議室

申込み：FAX またはメールにてお申し込みください。

※原則、Zoom でのご参加をお願いします。なお、会場での参加は先着 20 名とさせていただきます。

※申込み方法等は、別添のチラシをご参照ください。

※日本医師会生涯教育制度指定講習会として申請します。

※新型コロナウイルス感染症の拡大の推移により、開催方針に変更がある場合がございます。

お知らせとお願い

【患者さん向けフリーWi-fi サービスの開始およびスマートフォンアプリについて】

当院では、患者さんが無料で利用できるフリーWi-fi サービスを開始しました。

接続可能場所は、本館1階・2階の外来診療部門付近、および、本館3階から7階のデイルーム付近です。なお、接続方法や接続可能場所の詳細は別添のチラシをご参照ください。

また、外来診察時間を通知するスマートフォンアプリ（HOPE LifeMark-コンサルジュ）を運用しています。

このアプリでは、診察の前日には、予約のお知らせなどが通知されます。また、診察当日には診察待ち状況を確認することができ、順番が近づくと自動で通知されたりする機能があります。詳しくは、医事課または総合案内に設置しているチラシ、もしくは当院ホームページ掲載のマニュアルをご覧ください。

【地域医療連携室の相談室利用者へのお願い】

地域医療連携室の相談室の利用にあたり、下記のとおり新型コロナウイルス感染症予防対策を行うことといたします。つきましては、下記の点についてご理解とご協力をお願いいたします。

*原則入室者は3人までとします（例：患者さん、ご家族、関係職員）

*入室前に、相談室利用者カードの記入

*マスクの着用および入室前の手指消毒の実施

*入室時間は、原則 60 分まで

【形成外科への診療依頼について】

形成外科への診療依頼は、前田 和彦 医師にご依頼くださるようお願い申し上げます。

■■ 編集後記 ■■

（株BookLive による、〇〇の秋に関する意識調査では、No. 1 は「食欲」、2 位は「読書」、3 位は女性「芸術」、男性「スポーツ」という結果でした。

私はやっぱり食欲の秋ですが、皆さんはどんな秋でしょうか？



市立長浜病院 地域医療連携だより

令和3年10月1日号 No.201

理念
地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、
地域完結型の医療を進めます。

市立長浜病院
患者総合支援センター 地域医療連携室
〒526-8580 長浜市大茂亥町 313 番地
TEL：0749-65-2720
FAX：0749-65-2730
http://www.nagahama-hp.jp/



救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療連携拠点病院
厚生労働省臨床研修指定病院
周産期協力病院
地域医療支援病院

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。10月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

腎臓代謝内科および透析室についてのご紹介

腎臓代謝内科責任部長 兼 人工透析センター長 森田 善方

腎臓代謝内科のお仕事は大きく分けて、「糖尿病・内分泌疾患の診療」「腎臓疾患の診療」「二次性高血圧の診療」になります。最先端・最高の医療を牽引する力、地域の何でも屋さんになるべく頼もしいスタッフたちと取り組んでいます。

*糖尿病・内分泌疾患：比較的多い糖尿病から、少し珍しいホルモンの病気の診療を進めます。インスリンポンプ、持続血糖測定など最新機器も使いこなします。

*腎臓疾患：透析になるのを阻止すべく取り組みます。また心身に優しい透析医療を提供します。

*二次性高血圧の診療：若すぎる、高すぎる・など、ピンとこない高血圧は二次性高血圧かもしれません。原発性アルドステロン症、睡眠時無呼吸症候群など見逃すことがなく、ベストの高血圧診療を心がけます。

上記のどの分野も幸か不幸か自覚症状がほとんどありません。それだけに、地域のかかりつけ医の先生の紹介あってこそ我々の診療が成り立つと感謝しております。

医療者からは、血糖コントロール不良な方が10年後に合併症で困っておられる姿が見えています。糖尿病の本態は「高血糖性血管障害症候群」なんです。こう表現すると怖そうですね。ただ糖尿病の患者さんは、血糖が上がってもなんともない！とおっしゃいます。日々の生活の中でも、しっかりと取り組むのが本当に難しい病気です。色々な検査や最先端機器（持続血糖測定器）、そして何よりスタッフの熱意で少しでも糖尿病の状態を見える化！して、患者さんと一緒に取り組みたいと思います。

腎臓も症状がない沈黙の臓器です。腎疾患の診療は「治す！」「止める！」「導く！」が三本柱だと考えています。

*治す：IgA腎症を初めとした治癒可能な病気を診断・治療する。

*止める：腎機能の低下を少しでも緩徐にする。

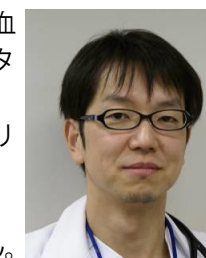
*導く：末期腎不全に至るとしても透析療法、あるいは透析を希望されない方の緩和的治療にできるだけ穏やかに導く。そのため当院が提供できるのは経皮的腎生検、ステロイド治療、腎不全教育入院、透析医療、緩和的治療です。できるだけ早いご紹介（高齢者でもeGFR30mL/min/1.73m²）で、より良い治療がご提供できます。

透析医療は、特に通院や自宅での生活や治療など、患者さんにたくさんの負担をお願いしています。透析では、おそらく患者さんが本当は見せたくない姿を見ることもたくさんあります。「飲み過ぎや！」「食べ過ぎや！」と言いますが、2日に1回診察していたら色々な事が分かりますよね。きっと患者さんは他所行きの姿ではなくて、素に近い姿を見せてくれるのだと思います。

家ではギャーギャー言っていて、ゴロゴロしている子供さんが学校や近所の人には「しっかりしている！」と褒められることは無いですか？（うちの子の名誉のために、うちの子がギャーギャーゴロゴロしているわけではありません 汗）

ギャーゴロは親子の信頼関係、安心してリラックスしているから見せられる姿だと思います。そう思うと透析医療は人と人、医療者と患者さんの距離が近い素敵な治療だと思います。

心に愛を持って、楽しく優しい透析医療をスタッフ一丸となって提供していくことを心がけたいと思います。以上のように、湖北地域の医療を充実すべく病院一丸となって全力で取り組んでいきます。今後とも宜しくお願いいたします。



人工透析センターのご案内

腎臓代謝内科部長 潮 正輝

当院の人工透析センターでは、末期腎不全患者さんに対して、透析導入を含めた入院での透析から外来での維持透析療法まで幅広く施行し、医療チーム（医師・看護師・臨床工学技士・栄養士・理学療法士・作業療法士）・他科と連携して、採血データとともに合併症精査（動脈硬化・心機能・骨粗しょう症等）を定期的に施行・対応し、患者さんのQOLの向上を図っています。

急性腎障害に対しての緊急透析療法や、透析回路を用いた様々な治療（血漿交換療法・LDL アフェレーシス・白血球除去療法・腹水濃縮還元療法等）も施行しています。

バスキュラーアクセスに対しても、シャント造設やシャント狭窄等のシャントトラブルへの適切な検査・治療を施行しています。

コロナ禍で緊急事態宣言の中、日本全体では168万人（全人口の1.34%）が既にコロナ感染を来されていますが、透析患者さんの感染は日本全体でも2,522人（透析患者総数の0.7%）と少なく、当院人工透析センターでも感染対策とともに、患者さん自身にもワクチン接種・感染予防を頑張らせていただいています。

皆さまにおかれましても感染予防に努め、体調には十分に気を配り、健康にご留意ください。



人工透析センター 看護係長 新木 貴枝

人工透析センターでは40床のベッド（うち3床の個室）を有し、週3回、午前・午後の2クールで、月曜から土曜まで血液透析を実施しています。

現在、外来血液透析120名（血液透析+腹膜透析併用あり）、入院10名前後の方にご利用いただいています。

また、検査や治療目的で他施設からの紹介患者さんの透析にも対応しております。

スタッフは3名の透析技術認定士がおり、医師、臨床工学技士と協働し安全に透析を受けて頂ける環境作りを心掛けています。

昨年度は、血液透析33名、腹膜透析2名の新規導入がありました。

維持透析先として、当院に限らず患者さんやご家族が希望される際には、近隣の透析施設ご協力のもと転院の受け入れをして頂いています。

将来的に透析が必要となる方には、医師の指示のもと腎代替療法選択面談も行っています。

患者さんの思いに寄り添いながら、お一人お一人のライフスタイルに合わせた透析を選択して頂けるような関わりを心掛けています。

近年は腹膜透析にも力を入れており、定期的なチューブ交換・PET検査にも対応しています。

今後も地域の皆さまとの連携をはかり、湖北地域の透析医療を支えていけるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。



～血液浄化療法担当 臨床工学技師より～

透析担当 臨床工学技師 塚口 昌文

日頃から臨床工学技士業務を通じて大変お世話になっております。

地元長浜で生まれ育った私が市立長浜病院に臨床工学技士として就職してから、早くも20年が経ちました。就職当時は5人しかいなかった人員も、業務範囲の拡大・高度化に伴い、今は12人に増えています。

まず我々臨床工学技士とは、生命維持管理装置を中心とした医療機器の操作および保守・管理を行う職種です。血液浄化療法、人工呼吸器管理、手術室、心臓カテーテル検査、機器管理業務など各担当に分かれ、機器トラブルや緊急症例に備え、365日24時間オンコール体制で対応するなど、医療と機器の橋渡しを担っています。



その中で、私は主に血液浄化療法（血液透析、血漿交換、腹水濾過再静注など）を担当しています。

最近では、診療報酬改訂にて令和3年3月1日から新しく保険適応となった、吸着型血液浄化器「レオカーナ」での治療を令和3年6月から開始しており、湖北地域では初めて、滋賀県では2番目の導入となっています。

今後も、日進月歩するチーム医療の一翼を担うべく、命をつなぐエンジニアとして臨床工学科一同研鑽していきますので、何卒ご指導、ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。



腎生検の看護

7階西病棟 看護係長 赤井 明美

当病棟では、経皮的腎生検の患者さんの看護を行っています。

基本は4日間の入院で、入院初日は主にオリエンテーションを行い、翌日に検査となります。検査は専用の部屋で行われます。医師が数名立ち会い、看護師も1～2名が介助に入るので物々しい雰囲気を感じられるかもしれませんが、

また、腹臥位での検査のため、何をされるのかと不安を感じられるかもしれませんが、一つ一つ何をしていくか説明しながら行います。

安全に穿刺ができるよう、患者さんには20秒程度の息止めなどの協力をお願いしています。

検査当日は朝絶食、検査前点滴や尿の管を入れます。これらによって異常の早期発見・早期対応が出来るようにしています。

検査終了後は圧迫用のガーゼや砂嚢を置き、仰臥位でまず3時間安静にさせていただきます。その後、エコーで問題なければ砂嚢は除去し、膝を立てることが出来るようになります。



さらに3時間の仰臥位安静を行い、再度エコーで確認してから安静解除となります。このときに管類が抜け、歩いて自室に戻っていただきます。

合計6時間の仰臥位安静が苦痛とおっしゃる方が多いですが、長時間の安静による腰痛などには鎮痛剤で対応いたします。もし、普段から腰痛がある方などは、事前に教えていただけるとありがたいです。

このように、安全に検査が行えるように、医師と看護師が協力して行っています。

